

# 9.18

75年前の1931年（昭和6年）9月18日は、満州事変の発端となった柳条湖事件を旧帝国陸軍の関東軍が引き起こした日です。その後「自衛」の名の下に戦線は拡大され、関東軍は中国の東北地方全域を制圧し、日本の傀儡国家である「満州国」が建国されました。

ファシズムはそよ風とともにやってくる、という警句があります。独裁者の強権政治だけではファシズムは成立しません。自由の放擲と隷従を積極的に求める民衆の心性あってこそ、それは命脈を保つのです。

私たちは今、まさにそのような空気のただ中にあるのではないのでしょうか。多くの人々が、何者かに対する不安や怯えや恐怖や、その他諸々がないまぜになった精神状態が、より強大な権力と巨大テクノロジーと利便性に支配された安心を欲しているかのようです。

雇用や教育の現場で、階層間の格差がとめどもなく拡大しています。一方では自衛隊が米軍の一部になろうとしています。個人の権利が制限され、国民の責務が強調されています。平和と平等が旨とされた（実際は共同幻想に過ぎなかったとしても）日本社会は、いつの間にか根幹の部分で変質しつつあります。

この奔流の総仕上げが憲法“改正”なのです。自衛隊という名の軍隊の存在を追認するかしないかというレベルを越えた、とんでもない事態が迫ってます。

私たちの、そして日本と世界のありようを、中国への本格侵略が始まったこの日に問い直すことは、私たちの責務なのかもしれません。

# 不戦を誓う日の集会

とき

2006年 9月18日（月・祝）  
10:30～12:30

ところ

鹿児島市 教職員互助会館  
（エルセルモ玉姫となり） TEL099-225-4555

講演

演題「安心のファシズムから  
改憲潮流へ」

フリージャーナリスト  
斎藤貴男さん



1958年東京生まれ。英国バーミンガム大学大学院修了。日本工業新聞記者、週刊文春記者などを経てフリージャーナリスト。「憲法行脚の会」呼びかけ人。著書『安心のファシズム』（岩波新書）『空疎な小皇帝―「石原慎太郎」という問題』（岩波書店）『カルト資本主義』（文春文庫）『国家に隷従せず』（ちくま文庫）『絶望禁止』（日本評論社）『バブルの復讐―精神の瓦礫』（講談社文庫）ほか

問い合わせ

鹿児島県憲法を守る会  
鹿児島県平和運動センター  
鹿児島市鴨池新町5-7-601  
電話 099-252-8585